

第2回ソーシャルファームジャパンサミット in 滋賀 ～就労困難者の支援の仕組みをデザインするフォーラム

社会福祉法人 共生シンフォニー
〒520-2145 滋賀県大津市大將軍 2-31-5

助成事業の概要

(1) 実施目的

近年、日本では若年層の失業率が10%と高止まりし、ニートや引きこもり、再犯を重ねる刑務所等の出所者など、「長期失業者」の問題も表面化してきました。そうした問題を解決するために、ソーシャルインクルージョン（社会的包括）という考え方を中心として、医療、福祉、労働、経済、産業など、多様な担い手と社会的弱者とのさらなる連携が始まっています。そこで重要になるのが企業の手法をつかって市場へ参入し、地域の課題を解決しながら、そこに就労困難者の雇用を創出し、そこに消費者を巻き込んでいく活動です。この活動は日本でも徐々に広がりつつありますが、まだまだ数は少なく、そうした活動を発展させていくためにも事業所間の連携や情報の共有が求められています。今回のサミットでは、先進事例などを共有するとともに、事業所同士が連携をしていく機会とします。

(2) 実施日時

平成27年6月27日（土）・28日（日）

(3) 実施場所

27日：琵琶湖ホテル（滋賀県大津市浜町2-40）
28日：ピアザ淡海（滋賀県大津市におの浜1-1-20）

(4) 実施内容

①ソーシャルファームジャパンサミット in びわこ
・記念講演：ジャルダン・ド・コカーニュが取り組む未来への挑戦 - ビオ野菜がつなぐ幸せの連鎖

- ・対談：ヨーロッパの実例から日本のソーシャルファームを考える
- ・報告：ソーシャルファームデザインの活用
ソーシャルファームジャパン会員実践報告
- ・講演：日本における農福連携と6次産業化成功の実例報告
- ・シンポジウム：ソーシャルファーム実践報告（先行事例から未来のソーシャルファームへ）
- ②ソーシャルファームの食材を使った夕食会
- ③ソーシャルファーム農場見学会
- ・「自然栽培圃場」見学（NPO法人縁活おもや）
- ・「水耕栽培と椎茸農場」見学（社会福祉法人美輪湖の家 マノーナファーム、資生園株式会社）
- ④ソーシャルファームの製品見本市

事業の成果

(1) ソーシャルファームジャパンサミット in びわこ

「就労困難者支援の仕組みをデザインする」をテーマにした第2回ソーシャルファームジャパンサミット in びわこを平成27年6月27日（土）、28日（日）に滋賀県大津市で開催した。就労困難者の仕事づくりや支援のために全国のネットワークを拡げようと、昨年北海道新得町で初めて開催。日本全国からNPOや福祉関係者、自治体、大学ら約320名が参加した、ソーシャルファームを通じて社会的弱者の自立生活を実現する可能性を探った。

27日は、「ジャルダン-」の創設者ジャン・ギィ・ヘンケル氏が南谷桂子氏のコーディネートのもと

取組を紹介した。また、社会的弱者をサポートする社会的企業に対して資金提供・人材育成などの面でサポートするNPO「FRANCE ACTIVE」代表のクリスチアン・ソテー氏からもフランスにおける社会連帯経済についての報告があった。

そのほか、「ヨーロッパの実例から日本のソーシャルファームを考える」と題した対談やソーシャルファームジャパン会員による実践報告があった。

28日は、「日本における農福連携と6次産業化成功の実例報告」と題した濱田健司氏（JA共済総合研究所）の講演や、滋賀のソーシャルファーム実践報告があった。

（2）ソーシャルファームの食材を使った夕食会

27日のシンポジウム終了後、日本全国のソーシャルファームで生産した農畜産物や加工品（22品目）を食材としたディナーを提供し、164名が参加した。（有）ココ・ファーム・ワイナリー（栃木県足利市）のワイン、玄海はまゆう学園（福岡県宗像市）の芋焼酎、みかんリキュール、企業組合エコネットみなまた（熊本県水俣市）のみかんジュース、プラスファーム（滋賀県東近江市）のにんじんジュースなどの商品も提供した。

また、薬物依存症の人たちの社会復帰を図る施設「びわこダルク」（大津市丸の内町）の和太鼓チーム「淡海響組」が会に登場し、演奏を披露した。

（3）ソーシャルファーム農場見学会

自然栽培に取り組み、そこで採れた野菜を使用した飲食店を運営する「NPO法人縁活おもや」や椎茸栽培や水耕栽培でサラダほうれん草や水菜の生産販売をおこなう「社会福祉法人美輪湖の家」の農場見学を行った。合計で70名近くが参加した。

（4）ソーシャルファームの製品見本市

障がいのある方や就労の困難な方々が福祉施設や事業所等で心をこめて作りあげた製品の販売促進とPRを図るため、「ソーシャルファームの製

品見本市」を27日、28日の2日間開催した。滋賀県内から6団体、県外から9団体が参加し、来場者に試食や試飲、販売、情報交換等を行った。また、厚生労働省と農林水産省の連携事業である農福連携プロジェクトの一貫として農福連携パネル展示も併催された。

成果の広報・公表

成果については、実行委員会のFacebookページ、事務局の社会福祉法人共生シンフォニー及びNPOコミュニティシンクタンクあうるずのホームページに随時公表していく。

広報に関しては、当日取材していただいた朝日新聞、中日新聞、京都新聞の紙面において記事展開を行っていただいた。障害者雇用事業所の職場ルポ等最新の雇用事例を中心に、身近な障害者雇用問題を取り上げた事業主向けの啓発誌「働く広場」からも取材を受けた。

また、NHK大津放送局から取材をうけ、6月29日の「おうみ発630」で放映された。

今後の展開

本シンポジウムは、日本全国からソーシャルファームを実践している現場の方々や行政、大学等様々な方が342名も参加していただいた。延べ人数では515名になる。昨年、北海道新得町で開催した第1回ソーシャルファームジャパンサミットはソーシャルファームジャパン事務局のNPOコミュニティシンクタンクあうるずが中心となり実行委員会を行い、第2回は社会福祉法人共生シンフォニーが中心となり実行委員会を立て、滋賀県大津市で開催した。

来年度開催する、第3回の開催地、開催日及び事務局の選定は、ソーシャルファームジャパンの理事及び世話人による会議を開き、決定する。

ソーシャルファームという同じ志をもった人々が一同に集い交流を図る機会はこれまでなかったため、今後全国ネットワークの構築や情報交換の場としてよい機会となり、これをきっかけに、福祉事業者、農業者、民間企業及び行政等がネットワークし、互いに支援し合う全国的な協力体制づくりを行っていく。